

Some Enchanted Evening(魅惑の宵) (ミュージカル「南太平洋」より)

【解説】 (Wikipedia 等より抜粋・編集)

ミュージカル「南太平洋」(South Pacific) は、1949年初演のブロードウェイミュージカル。ジェームズ・ミッチナーの著書『南太平洋物語 (Tales of the South Pacific)』が原作。作曲はリチャード・ロジャース、脚本・作詞はオスカー・ハマースタイン2世。1949年4月7日にブロード・ウェイのマジスティック劇場で初日のフタを開け、1954年1月まで、1925日のロング・ランを行っている。1950年、アメリカの演劇界で最も権威あるトニー賞を受賞。

太平洋戦争の真最中、南太平洋のある島が舞台。ここに海兵隊のジョセフ・ケーブル中尉が敵輸送船団の動静監視の任務を帯びてやってきたところからストーリーは始まる。戦争の悲劇の中、対日作戦に協力するフランス出身の農園主エミール・デ・ベックと島の海軍の看護婦ネリー・フォーブッシュ、さらにはケーブル中尉と島の土産物屋メリーの娘ライアットとの恋を描く。

1958年にはアメリカで映画化された。出演はロッサノ・ブラッツィ (エミール・デ・ベック役)、ミッツィー・ゲイナー (ネリー・フォーブッシュ役) など。当時は珍しかった2ヶ月に及ぶ大規模なロケーション撮影が、ハワイのカウアイ島で敢行されて話題になった。興行的には国内外で大成功をおさめ、50年代を代表する人気映画の一つとなった。

‘Some Enchanted Evening’ (魅惑の宵) は「南太平洋」のハイライト曲である。農園主エミールが、年齢の差を越えて愛するネリーへの想いを打ち明け、美しい南の島の夜景をバックに歌う。ロマンティックな旋律の美しさでは、ミュージカル史上不朽の名作と言える。

【歌詞および試訳】

Some enchanted evening, you may see a stranger
You may see a stranger across a crowded room
And somehow you know, you know even then
That somewhere you'll see her again and again

ある魅惑の宵、あなたは見知らぬ人と出会うかもしれない
混み合った部屋の向こうにその人を見かけるかもしれない
そして何故だか、もうその時にあなたは分かっている
彼女とはこれからどこかで何度も出会うだろうと

Some enchanted evening, someone may be laughing
You may hear her laughing across a crowded room
And night after night, as strange as it seems
The sound of her laughter will sing in your dreams

ある魅惑の宵、誰かが笑っているかもしれない
混み合った部屋の向こうに笑い声が聞こえるかもしれない
そして来る夜も来る夜も、不思議に思えるだろうが
彼女の笑い声があなたの夢の中で歌うことだろう

Who can explain it, who can tell you why
Fools give you reasons, wise men never try

誰がそのことを説明できようか、誰がその理由をわかるだろうか
愚か者はあれこれ訳を言うだろうが、賢者は決して試みもしない

Some enchanted evening, when you find your true love
When you feel her call you across a crowded room
Then fly to her side and make her your own
Or all through your life you may dream all alone

ある魅惑の宵、あなたが真に愛する人を見つけた時
混み合った部屋の向こうからその人が呼んでいるように感じた時は
すぐに彼女のもとに飛んでいき、あなたのものにしなさい
そうしなければ一生一人ぼっちで夢を見続けることになるだろう

Once you have found her, never let her go
Once you have found her, never let her go

愛する人と巡り逢えたならば、決して彼女を離してはならない
愛する人と巡り逢えたならば、決して彼女を離してはならない